

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	大阪府立大学	整理番号	c016
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	EBCP志向の博士前期・後期課程リンケージ		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 看護学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (臨床看護学・慢性病看護学;その他、EBCP、患者教育、介入評価)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 看護学研究科・看護学専攻 博士前期課程及び 博士後期課程	研究科長(取組代表者)の氏名 土居 洋子	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>大阪府立大学は、平成17年度に大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学の3大学を統合して7学部6研究科を有する総合大学である。新大学として目指す理念は「<u>知の創造</u>」「<u>知の活用</u>」「<u>知の継承</u>」「<u>地域貢献</u>」であり、ひいては知識基盤社会の創生と発展にある。これらを踏まえ世界的な研究・教育拠点の形成、若手研究者および高度専門職業人の養成、社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流)を具体的に推し進めている。</p> <p>このような大学全体の目標のもとに、大学院看護学研究科は、「多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護学分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成する」(看護学研究科教育理念より)。</p> <p>本大学は、看護学研究科教育理念をさらによりよく実現すべく、①前期・後期課程が連動してエビデンスに基づく臨床看護の知の発展を目指す若手研究者養成プログラムを新設すること、②そのための情報発信基地としての『療養学習支援センター』(看護研究センター)をさらに充実させ、③地域に開かれた保健医療看護の専門図書館『羽曳野図書館センター』の尚一層の充実に向けて支援する。</p>			

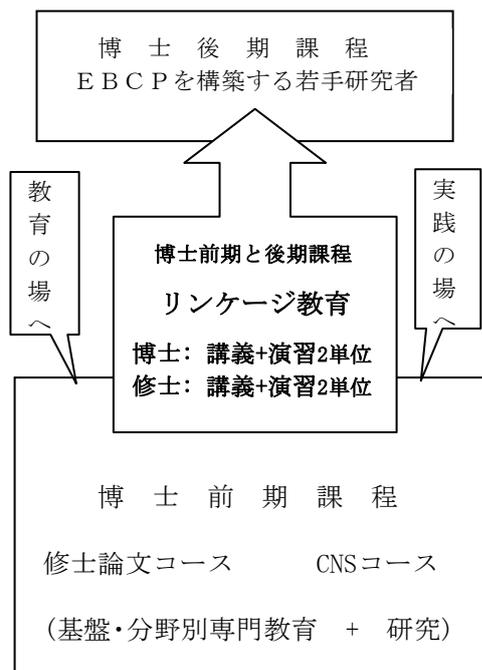
機 関 名	大阪府立大学	整理番号	c016
-------	--------	------	------

5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)

大学院看護学研究科では、平成10（1998）年4月に博士前期課程を、平成12（2000）年4月に博士後期課程を開設した。博士前期課程には、修士論文コースと専門看護師（CNS）コースがあり、卓越した看護の実践者、看護管理者や看護教育者を育成する。特に専門看護師（CNS）コースは、わが国最多の10分野（がん看護、クリティカルケア、慢性看護、感染看護、小児看護、老年看護、地域看護、在宅ケア、精神看護、母性看護〈リプロダクティブヘルスケア、周産期看護〉）を開設するにいたった。平成17年3月現在まで、前期課程の修了者は87名である。その内、専門看護師（CNS）コース修了者は31名にのぼり、9名（29.0%）が専門看護師の認定をうけ、がん看護やクリティカルケアの領域で活躍している。平成17年度からは入学者が急増し、現在46名が在籍している。

博士後期課程では看護学における独創的な研究・教育活動が自立してできる教育・研究者の育成を目指し、平成17年3月現在、9名の博士(看護学)を輩出している。

5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)

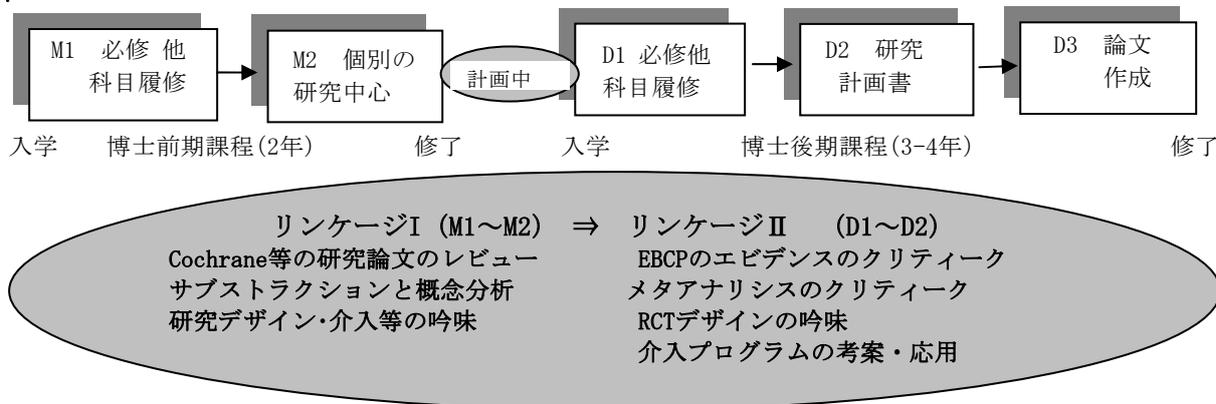


現在、前期課程修了者の多くはCNSを目指して実践の場へ、または助手・講師として教育の場へ進む。今後は後期課程へ直接進学することを動機付けるとともに、大学院教育の実質化として、**根拠に基づいた臨床実践 EBCP(Evidence-based Clinical Practice)**の知の探究者としての若手研究者養成を目的とする、前期と後期を連結する新たな教育プログラムが求められる。

そこで、現在、前期（修士）および後期（博士）課程のそれぞれで必修科目として提供している看護学研究法および理論看護学関連科目をさらに充実させ、**EBCPに焦点化したリンケージ・プログラム**を計画している。内容は、Cochrane CollaborationやCampbell Collaborationが集積するエビデンスの批判的吟味と介入計画作成（前期課程）、RCT研究の方法論探求とメタアナリシスや介入評価研究（後期課程）からなる、前期と後期を連結する教育プログラムである。各専門分野の教員によるグループ・ティーチングにより専門分野の枠にとらわれず、学生間の協働を生かす独自の試みである。

6. 履修プロセスの概念図

看護学研究科 博士前期課程と後期課程の履修プロセス (現在実施している内容、リンケージは計画中)



【博士前期課程】 修士論文コースとCNSコースに分かれるが、1年次では必修および基盤科目、専攻分野の特論・演習科目履修で知識を拡大し、2年次にかけて研究テーマを絞り、2年次ではそれぞれのテーマで関心を焦点化し深めて、研究論文を作成する。

- 1年次 前期: 必修科目、基盤の選択科目、専攻分野の特論と演習科目を履修
後期: 専攻分野の特論と演習を引き続き履修、研究計画書作成の準備にはいる
- 2年次 前期: 研究計画書提出と審査・倫理委員会提出 データ収集開始、 CNS実習実施
後期: 修士論文コースでは引き続きデータ収集、CNSコースでは課題研究データ収集着手
データ分析と論文のまとめ、論文提出と審査・最終試験

基盤	必修4単位 理論看護学 看護学研究法	選択科目 17科目から6単位以上		
専門教育	人・環境支援看護学領域	家族支援看護学領域	生活支援看護学領域	療養支援看護学領域
特論演習4科目8単位	(専攻分野) 看護技術学 看護情報学 看護管理学 看護教育学	(専攻分野) 母性看護学 小児看護学	(専攻分野) 地域看護学 精神看護学 老年看護学 在宅看護学	(専攻分野) 急性看護学 慢性看護学 がん看護学 感染看護学
修士論文	専攻分野以外の特論科目から選択で4単位以上 特別研究(修士論文) 6単位 (修了には32単位以上)			
CNS	専攻分野のCNS認定基準科目 2単位以上 実習 6単位 課題研究 2単位 (修了には32単位以上)			

【博士後期課程】 1年次では必修の看護学研究方法論(2単位)を含む基盤教育科目4単位以上と、専攻分野の特論・演習を履修する。2年次では引き続き、特論と演習を履修しながら、研究計画書の準備に入り、通常は、2年次前期から後期にかけて予備研究を実施し、研究計画書提出・審査、3年次は研究の実施、データ分析、論文執筆、論文提出となる。特別研究(6単位)を含めて、合計14単位以上を修得し、博士論文の提出、論文審査と最終試験の合格をもって修了要件とする。

- 1年次:前期・後期: 8単位以上を修得 (看護学研究方法論、看護理論開発方法論、その他専攻の特論・演習科目、基盤教育の選択科目)
- 2年次:研究計画書準備、予備研究実施、研究計画書を完成し提出・審査、研究倫理委員会に提出
研究開始 中間報告
- 3年次:引き続きデータ収集を継続 データ分析 論文執筆 博士論文提出(1月) 予備審査
論文審査と最終試験 論文発表会 修了判定

機 関 名	大阪府立大学	整理番号	c016
<p data-bbox="165 203 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 878 1206 907">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 972 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1021 1382 1196" style="list-style-type: none"> ・博士前期課程で臨床家育成に重点を置きながら、博士後期課程への動機付けや進学の際の必要な学習条件をEBCP（Evidence-based Clinical Practice）の考えを導入し、リンケージプログラムとして具体的方法を示している。「療養学習支援センター」の活用もプログラムの中核に位置付けられ、看護学研究科としての方針が明らかにされている点は評価できる。 			